

1 歴史年表・歴史地図を利用した授業展開例

教科(科目)	地理歴史(世界史 A)	単元名	諸地域世界と交流圏 - 東アジア - (1時間目 / 4 時間)
本時の主題	古代における東アジア世界の交流		
本時の目標	<p>1 歴史の舞台となる東アジアの地域の構成を理解するため地図を描くことができる。【技能・表現】</p> <p>2 中国王朝の変遷を理解し、年表の作成によって歴史の流れをつかむ。【知識・理解】</p> <p>3 古代における日本と大陸(中国・朝鮮)の交流を把握することにより、当時の国際社会を理解する。【知識・理解】</p> <p>4 日本と大陸(中国・朝鮮)の交流の中で、興味・関心のある事柄を見つけだし、課題追究学習を進める態度を養う。【関心・意欲・態度】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・評価の観点	
東アジア世界の地理的状況を把握する。	<p>Question 1</p> <p>東アジアにはどのような地域があるのだろうか？ 地図を描いてみよう</p> <p>ここでは前時及び宿題であらかじめ描いてある地図を観察させる。</p>	<p>地図の中の何を記入するかや、どのような描き方をするかは生徒個人にまかせる。【技】</p> <p>評価方法 机間指導をしながら注目するポイントを聞き出し、他の生徒に紹介し、また、批評(誉める)する。アジアの地理的特徴、日本をめぐる地形や自然条件を地図の上から見つけさせる。</p>	
10分	<p>Question 2</p> <p>東アジア地域の地理的特徴(地形・気候)は何か。</p> <p>モンスーンによる湿潤な気候帯、乾燥気候帯などの相違を大まかに理解する。「南船北馬」の意味を理解する。</p>		
古代東アジア世界の歴史を大まかに把握する。	<p>Question 3</p> <p>東アジア世界にはどのような王朝があったのだろうか？ 王朝の変遷略年表(10世紀までの)をつくり、時代の流れと各国の横の関連に注目してみよう。</p> <p>年表はあらかじめ宿題で作成させる。年表は中国・朝鮮・日本に限定し、関連事項(進出や朝貢・交易など)を簡単に確認しながら、中国を中心に東アジアの古代史を大まかにとらえさせる。</p>	<p>年代把握を確実にすることと、国と国のつながりを認識させることに心掛ける。【知】</p> <p>評価方法 年表を後で提出させる。</p>	
15分			
日本と大陸との交流を把握する。	<p>Question 4</p> <p>古代東アジア世界は日本とはどのような関連があったのだろうか？ 東アジア世界の各時代の歴史地図から隣国との交流を理解しよう。</p> <p>2世紀・3世紀・4世紀・5世紀・7世紀の歴史地図から、日本と各地域間の交流の様子へとつなげる。 事前に作成させた地図を確認</p> <p>日本との交流の具体例を発問。 その後、板書を使いながらまとめる。 ・パターン1：中国の正史から分かる大陸と日本との交流 『漢書』『後漢書』『魏志』『宋書』『隋書』 漢委奴国王、邪馬台国、倭の五王、遣隋使など ・パターン2：大陸(中国・朝鮮)から伝来した文化 稲・漢字・金属器・仏教・儒教・医学 美術・工芸・騎馬文化 など ・パターン3：4・5世紀における朝鮮半島南部との関係</p> <p>全てのパターンを提示するのではなく、生徒の発言に沿って時間の範囲内で取り上げる。足りない分は後でプリント等で補足する。</p>	<p>各々の世紀がどのような世紀かを理解させながら進める。</p> <p>古代社会における日本と大陸との相互のかかわりを理解させる。【知】</p> <p>評価方法 交流史の例を教師側が提示する前に、どのような交流があったかを発問、挙手を促し発表させる。</p>	
45分			
テーマ設定をして調べ学習に導く。	<p>Question 5</p> <p>日本と大陸の交流でどんなことに興味がありますか？ 興味・関心のあるテーマを探し、調べてみよう。</p> <p>日本と大陸(中国・朝鮮)の交流の中で、興味・関心のある事柄を見つけだし、課題追究学習を行う。</p>	<p>自分の趣味や・将来の希望などに関連したものを探させる。【関】</p> <p>評価方法 提出した課題を評価。</p>	
50分			

この授業事例では東アジア世界の学習の土台として、東アジア地域の地理的特色と時代の流れを概観することに主眼をおき、大まかな理解の中から生徒の興味・関心を引き出すことを考えた。

地図や歴史地図を描くことで東アジア世界の中の日本の位置を理解させ、日本と隣国の交流の具体的事例を見つけたことで隣国との交流の深さを強調し、中国を中心とする高度な文化が日本など周辺諸国に大きな影響を及ぼした事を理解させ、アジアに関する理解、さらには、国際理解につなげることを意図した。

また、東アジア全体への関心を高め、生徒自らがテーマを選んで課題追究学習を実施できるように、テーマの選択を行わせた。

世界史 A の授業を構成するにあたっては、全体的には、世界史 A の目標である「国際理解」を意識し、どの地域に対しても偏見のない歴史観や他国文化を尊重する姿勢を養うことが重要と考える。特に、「日本の高校生が学ぶ」という観点を重視して、学習指導要領改訂の趣旨の一つである「日本が欠けた世界史にならないような構成」を実現するため、アジアの中の一員であることを古代社会の交流を通して感じさせたいと考えた。

単元の計画

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 古代における東アジア世界の交流 | 1 時間 (本時) |
| 2 東アジア世界の形成と思想 | 1 時間 |
| 3 東アジア海域世界と日本 | 1 時間 |
| 4 東アジア世界に関する課題追究学習発表 | 1 時間 |

教科書の順序的には、東アジア世界のあと各地域世界の学習が続くが、この計画では、項目選択学習を行う「ユーラシアの交流圏」の中から、「東アジア海域世界とユーラシア」を選択し、東アジア世界の学習に続けて、まとまりを持たせている。

< 生徒が関心をもって設定したテーマ >

事 項	内容・理由	進 路
科学	高級官僚の試験として興味を持った。問題の内容や難易度、受験勉強、そして給料などについて	公務員
万里の長城	万里の長城はどうやって造ったのか。	建築系
医学の伝来	大陸から日本への医学（医術）の伝来	医療系
言語の誕生	人類最初の言語はどんなものだったのか。	外国語学部
運河建設	隋時代の運河の建設はどのように行われたのか。	建設関係
国際交流	遣隋・唐使時代のコミュニケーションはどのようにしてとったのか	外国語学部
巨大墓の建設	殷 や兵馬俑また日本の古墳の造り方	建設関係

は実際に授業でプレゼンテーションソフトを使い発表した。

総合学科設置校である本校の生徒の進路との関係でテーマを選ばせると、比較的具体的のあるテーマが設定された。